



から「農業は夫婦でやった方がいいよ。子どもが小さくとも融通が利くから」と勧められて「じゃあ夫婦でやろうか」ということになりました。白糠に移住するため、3年間、長女の進学と次女の入学を待っていたら、その間に国の制度が変わって、青年での認定新規就農者になれる年齢要件が変更になりました。それで、夫が地域活性化支援員として1年も研修を受けられなくなつたことから、思つてもみなかつたのですが、私が一人で農業の研修を受けることになりました。



簡単にはいかない でもワクワクしている

今は宮木農園さん（上庶路）で研修をさせていただいています。覚悟はしていたんですけど、やっぱり農業は大変ですね。子育てしながらですし体力勝負です（笑）。思つていた以上に細かい仕事も多くて、本当に厳しい世界だなと思います。ですが、自分で種から育てて肥料を撒いて、収穫までこられたということに、すごい喜びを感じています。農業はクリエイティブな仕事だなとつくづく思いますね。栽培技術もそうですが、天候任せのところもありますので、自分の思い通りにはいかないこと

が多い。でも逆に駄目かなと思つていたものが立派に育つこともあります。そういうところが本当に難しいです。経験を積んでいくしかないのかなと思いますね。まだ始めたばかりなので不安はあります。ですが、その反面、ワクワクもしています。宮木さんが細かいところまできちんと教えてくださるので、今はちょっとだけワクワクが上回っている感じですね（笑）。

愛情込めて安心して 食べられる野菜を

宮木さんからは「野菜にもきちんと愛情を持つて接していれば、ちゃんと育つてくれるから」と言われています。実際に宮木さんはただ野菜を作っているだけではなく、本当に愛情を持って育てているので、私も「おはよう」とか言つて野菜に話しかけながら、育てているんですけど（笑）。あとはとにかく惜しまずに手を掛けるということですね。宮木さんは何でもかんでも機械に頼らず、手作業でやられていることが多いので、本当に勉強になります。農業は自分でやったことが全部自分に返つ



宮木農園の宮木かよ子さん（左）

てくるので、自分が手を掛ければ

それだけ野菜も応えてくれるし、手を抜けば野菜も駄目になつてい

く。そういうところはすごくやりがいがありますし、自分の努力次第で未来が開けていくというか、夢が大きく膨らむ仕事なんじやないかなって思います。今は研修で農業に必要な知識や技術をしっかりと学び、ゆくゆくは夫婦で「少

量多品目栽培」という形での農家になれば良いなと考えています。自分の子どもにも安心して食べさせられるものを消費者にも提供したいと思っています。